

有宵会だより

第75号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

六月・七月の運勢

気学では午六月

六月五日（芒種）節入り

ア 天道

6	2	4
5	7	9
1	3	8

破

生氣

気学では未七月

七月七日（小暑）節入り

ア 生氣

5	1	3
4	6	8
9	2	7

破

天道



一 白水星の人の運勢

六月筮一 沢雷隨の九四

七月筮一 山地剝の六四

何かと用事が多く気忙しい。厄介な内容なので慎重に。愛情は素直に伝える喜び。金銭の深入りはトラブル含みで用心目下や子供への思い遣つて笑顔あり。体調は疲れと節々。下旬の風邪用心。

七月は予定の処理早く延ばさない。書類やカード類は再確認、意外な出費で驚く。知人の付き合

い煩わしいが我慢、家庭は食事仲良く体調管理を。視力、歯の手当てを早

二 黒土星の人の運勢

六月筮一 地山謙の六五

七月筮一 風山漸の九三

身の回りは慎重、生活の流れを変えず、ムリ押しは失敗のもと。愛情面は言葉に表わすのが大切

また恋心を抱く出会いがあり。仕事は地味にまともの方針が吉。体調は循環器、頭痛、精神つかれ。

七月は今の生活を大事にする。仕事は下準備と

支え役に回ること。整理

整頓、家族に思いやりが喜ばれる。金銭は平凡投資は不調。健康は睡眠食養で維持し風邪注意。

三 碧木星の人の運勢

六月筮一 震為雷の六五

七月筮一 山天大畜の初九

何事にも安全方針を心掛ける。責任問題が生じるので公私に注意深く。

目下から学ぶ謙虚さが評判、実力を蓄える。甘い話にはトゲがあるもの。家庭器具の故障用心。足

腰痛、転倒、便秘で悩む。

七月運小事は安心でも油断をしない。家族円満

が第一なので優しく。諦めかけた事が復活チャンス。社交面は人脈生かし

四 緑木星の人の運勢

六月筮一 震為雷の六三

七月筮一 風火家人の上九

活気に溢れるが欲を出

し過ぎて疲れる。対人面

で我を張ると不調。相手

を見て行動する。乗物の接触や怪我用心。金銭の動きに警戒と商品傷物に

五 黄土星の人の運勢

六月筮一 火沢睽の上九

七月筮一 天山遯の上九

明るく陽気な心でチャンスを掴む、新規の事に

取り組む先見の明を生かす。家庭に人集まる行事あり。仕事は忙しく意欲

的だが二兎を追わない。金銭の浪費用心。湿疹皮膚、

胃炎、再発気味など。

七月は順調に展開し辛便にいく。実力発揮で気張るでしょう。対人関係

六 白金星の人の運勢

六月筮一 沢地萃の六二

七月筮一 風火家人の六二

のど、頭重、風邪の用心。

六月多望で充実感があ

るので気合が入る、中旬

に人の出入りが続く。家事は手抜きあり、金銭が絡み尾を引くので打ち切

七 赤金星の人の運勢

六月筮一 乾为天の九五

七月筮一 水風井の六四

公私に用事が殺到してんてこ舞い、長引くので

焦らずに。家庭内の対立を避けるのが賢明。上旬

ウツカリ失言、中旬に過去の古傷を蒸し返すので

用心。諸事復調を目指す。疲労、胃腸、持病再発。

七月は出る釘は打たれる低姿勢で臨む。前半の

八 白土星の人の運勢

六月筮一 水地比の初六

七月筮一 天火訟の九五

公私共に用事が増えて

七月筮一 雷水解の九四

漸く気持が落ち着く、何

かと片付け用事に着手を。金運は将来のためになる見通し、知人と疎遠の様

九 紫火星の人の運勢

六月筮一 沢火革の九五

七月筮一 天水訟の九五

骨折れる。焦らず一つ一つ処理。対人面は気が疲

れるが成行き任せる。決断が付かないので悶悶としやすい。気分転換をも

て癒やすこと。体調は気疲れ、歯と咳、節々用心。

七月は前半不調で後半落着く。無理押しをせず流れに任せる。家族愛を

大事にいたわるのが吉。実力がある人は謙虚にな

るので人望あり、金銭は節約一番です。健康管理

は生活習慣、腰痛痛む。

福田 有宵

三月有宵会報告

久保田 恵都予

平成二十八年三月二十八日(月)足立区勤労福祉会館に於いて例会が開催されました。佐藤宗暉先生の司会進行により、第一部は河野有泉先生により「私の気学との出会い」と園田真次郎先生の講演、第二部は福田有宵先生の「方位学の秘訣」についての講義をいただきました。

第一部

私の気学との出会いと 園田真次郎先生

河野有泉先生



この歳になりまして、ご縁というものを非常に大切に思っております。

気学との出会いは、昭和二十九年、私が九歳の時、父親が脳溢血で倒れまして救急車で運ばれ、意識不明のまま亡くなりました。三人兄弟で姉はこの時二十歳で結核の病

み上がりで、兄は十八・九歳頃、母は明治三十八年生まれ、五黄土星で五十歳。働き手は兄だけ、明日からどうやって食べていくか大変だと思っていたのではないかと、以前、小伝馬町に住んでいた時に、同じ町内に園田真次郎先生が居ることを思い出し、その先生におすがりしようと荻窪にある大正館に聞きに行きました。皆様ご存知のように園田先生は気学という言葉を生み出された方です。私が調べたところでは、明治九年に桐生で生まれて、昭和三十七年に八十六歳で隠居先の湯河原で亡くなられたようです。私達は、父が亡くなるまでは鶴沼に住んでおりましたので関係はありませんでした。小伝馬町は問屋街なので、問屋さん達は園田先生に良く鑑定をして貰っていて、中にはミシンを千台買っておきなさいと言われ、とても買うことができず半分の五百台を買っておいたら、その後戦争が起きて軍服で大儲けしたとか、羽田でまだしじみが取れた頃に、此処は東洋一の飛行場にな

るとおっしゃっていたようです。非常にスケールの大きい先生で、短気で多分好き嫌いなどもハッキリしていたのではと、息子さんから聞いております。大正十二年の関東大震災ですが、十一年に日本橋にペンペン草が生えるようになると言われて、荻窪に家を建てて引越されました。荻窪の家は広く五百坪あり、今ではマンションが二棟建っているそうです。大正館の天相式(家相)が有名で、お屋敷もおそらく天相式で建てたのだらうと思えますが、その頃私は全然解りませんので、この天相式がどういうものを意味するか詳しく聞いたことは無く、西側にポツンと二棟建てると旦那さんが女性関係をもつとか、という習方で今思うともつたいなかつたと思えます。荻窪の住まいを図に書いてみますと(ボードに記す)、一画の通りから通りまでが敷地で広く、母屋が非常に大きく、門は大きな石柱でどなたかが寄贈されたそうです。北西の方向だと思いますが、大正館の家が石造りで、教室がありました。

西南の庭の方には別棟がありました。天相式なので窓は高目です。建てた当時は東北に下水道があり、下水道の溜まり汚れは癌体質を作りその体質は十九代続くと言っており、敷地の外まで引いてそこに落とすと聞いています。東北の角は後継者や長男と言われますが、この所はかなり広い駐車場になつていました。家相については、十月十日お腹の中にいる時に住んだ家相が先天の体質を作ると言われていました。家相でいう、はき出しの窓やマンション等でベランダに出る下まで切った窓は凶相と習いました。窓は正座して座つたときに、肘を掛けるくらいの高さで止めて、下まで切らない。大きな敷地に大きく建てるというのが基本でした。私の実家を建てる時も天相式でした。完全ではありませんが息子さん先生に設計していただき、盛り土は吉方より採っています。百坪の土地で北東の方向に十畳程の寢室を建て、此処には絨毯は敷いてはいけな

いと言われ、ベッドの下には敷いておりません。寢室と母屋は半間の渡り廊下が作ってあり母屋は大きく取ってあり巳、酉、丑で取つたと聞いています。本来、天相式での渡り廊下は最低一間の巾を持つようと言われます。家の周りの近くには木を植えないこと。木は育つて大きく根を張つたりすると、土用の作用を起すので少し離れた場所に植えてあります。お水取りは、ほとんどしなかつたです。兄は商売がしたく、本命二黒月命四緑の人だったので、九紫の吉方を使って実家の鶴沼から、お位牌一つ持つて上野の四帖半一間に慎ましく貧困の生活をするようになりまして。母は、人は最低の生活はしても良いが、長居をしてはいけないよ。と言われたので此処は一年で出ました。お水取りはしませんでしたが移転、移転で良い方角に動くことを兄は買いて、良く働きました。まず最初に父親のお墓を造りまして朝に晩にきちんと呼んでおりました。最終的には天相式の家も建て、運転手付きの車に乗っていましたから本当に気学を信じていたお陰

かと有難く思っております。大正館で勉強していた頃は、先生の息子さんの矢島滋規先生に習っていました。この方は、実子ではなかつたのですが園田先生は大変に可愛がつておいででした。矢島先生がおっしゃるには、皆が園田先生のことを気学、気学と言うが本当は易の方が凄く、良く当たつたということでした。園田先生の講義は口伝で教科書は一切使いませんでした。矢島先生は口伝を書き留めておいたのではないかと思います。吉方移転なども十一時に寝るだけで良いと、また何キ口ではなく、大きな山・川・鉄道線路を一つ跨ぐと気が変わるからそれでも良いと言っていました。これまで天相式家相や吉方取りをと色々やつてまいりました兄も、入院を四・五年くり返す時期がありました。兄は、家を復興させたいと強く願つておりましたから死ぬ前には、その願いも全部叶えた。と兄は言っていました。私はこういうことを言

うと人間は何か終わりな
のではないかと思いま
したが、三か月後に白血
病を発病して六十八歳で亡
くなりました。人間は思
いが叶ったというより、
何か足りない位の方がよ
いのじゃないかと思いま
す。兄は父親かわりでワ
ンマンな人でした。

矢島先生は九十過ぎて
亡くなりましたが離れて
いて先生のご葬儀にも行
かれませんでした。

ありがとうございます
た、という言葉さえ言え
なかつたのです。

母は百二歳で兄より長
生きをしてくれました、
生前に、育ててくれてあ
りがとう、と伝えう事が
できました。母は兄の商
売を何とか成功させたく
て何かと動いておりまし
たので、兄が亡くなった
時には苦勞をさせてすま
なかつたね、と父が亡く
なった時でも涙を流さず
机上に振る舞っていた母
ですが、この時ばかりは
涙を流しておりました。

ありがとうございます
とても大切だと思います。
冒頭でご縁ということ
を申し上げましたが、私
の夫は転勤族でした。主
人が長野で難病の心臓病

を患って四十五日間入院
しました時は、長野の雪
空を見上げて悶々として
私の人生どうしたら良い
のかと思つて、行き着い
た答が、もう一度気学を
勉強して運勢、運命を切
り開きたいと思ひました。

誰か、何処かで教えて
くれる所はないかと考え
ていた時、松戸のクロー
バーサークルがあつたの
で即飛び込みました。

私は六白が吉方なので
家からは南に当たり、南
に六白が廻る月まで待つ
て入りました。確実に素
晴らしい先生だと確信し
ておりましたが、ここで
福田先生とご縁ができた
訳です。

初めて授業を受けた後
お食事をしているときに
先生がサイコロを振られ
たのですが、その時に園
田先生が、易はすぐく当
たる、という言葉が頭に
浮かんで背中がゾクゾク
しました。私は易のでき
る先生に会えたのだと思
いました。

大正館で、園田先生、
矢島先生、最後に福田先
生とご縁をいただき、
福田先生から気学の奥深
さと人間性の素晴らしさ
を教えていただきました。

気学を知つて六十年余り、
長い糸が縁で繋がつてい
るよう感じました。

天相式家相についての 解説

福田有宵先生

気学という名前を付け
道順を付けて集大成され
たのが園田真次郎先生で
す。

天相式家相とは、三合
による家相の造り方で四
種類あり、特に財運を作
るには、どうしたら良い
かということだ。巳・酉・
丑の設計というのが主に
なつたのです。

母屋に対して両翼が張
る。三合の二か所は渡り
廊下で離れ式の様素で個
建てという存在の中で結
んでいく。天相式は天井
が高く、空気穴を付け、
病気になる時は別棟で
四十五日から六十日生活
する。

と思います。意味は一代
限り。丑寅、中宮、未申
を押さえることが家相の
本質です。

第一部 方位学の秘訣

福田有宵先生



最近ネットで色々と独
自の占が出てきて問題も
出てきています。松戸の
生徒さんからの質問があ
り三つほど申し上げます。
一、東へ行つて西へ行く
とお互いの内容が少なく
なるからしないほうが良
い。

二、定位対沖 この方位
は凶としているがどうし
てか。
三、土用方位（土用殺）
の問題
基本に戻つて見ますと、
それぞれ生まれた時に夫々
が星を与えられています。
気学では、年・月・日・
時間を。乳幼児は日命
を参考にしますし、病氣
なども日命を使う方法も
あります。生まれた時に

ある限定された星を与え
られ、月が変わるとまた
違つた星の意味も与えら
れますので、星を二つ持
ちます。同じ価値観を持
つのも本命・月命の意味
合いがありますが、使え
ないものをいかに補つて
いくか。

平成二十八年申歳は二
黒中宮の星が基本となり、
それに比較するのが五黄
中宮とした定位盤です。
ネットで調べた場合に、
東西に動いた時にその結
果が減つてしまつと書か
れていることですが、何
故そのような答が出たの
か。拠点となる所から基
づいて九星は八方位・十
二支を中心は十二方位、
方鑑流儀は二十四方位と
この三通りの分野で判断
する訳ですが、気学は、
八方位と十二支方位を原
点にします。四正の方は
エネルギーが大きく純度
が高いので、まず四正の
方を取り四隅の方で補つ
ていく。東に行き、また
日を改めて西へ行く。こ
れは一直線上であるので
お互いに相殺するのでは
ないかという判断です。

結論から言いますと、
東の吉方良し、日を改め
て西の吉方良し。相殺す
ることは全く無く、それ
ぞれの象意の結果が現れ
る。
これは対沖の理論で、
南と北、五黄と暗剣、本
命と的殺。これらは線上
にまたがつてきますから
解りやすい。破れの方位
は半分なのです。話を戻
しますと、東西は相殺、
減少で対沖の作用からき
ているのではないかと
言わんとしているのでは。
昔から、方位は一か所を
三回取るのが開運に導く
と言われる三回説があり
ます。気を受ける（運に
繋がる）のを保気とも言
い四ツ目系統で表れます。
一・四・七・十です。例
えば三月卯の月だと辰・
巳・午の六月に結果が出
る。今年の東の九紫方位
は、その人の才能、能力
を伸ばし、西の四緑方位
は、人と仲良く、自慢を
しないなどを取得するも
のがあるわけです。
二つ目は同会法。運が沈
んで伸びない。五黄、暗
剣は少し頭打ちになるケ
ス。坎宮、中宮の場合は
少し動きが取れないもの
がある。昔から不運の時
ほど祐気取りをしなさい
と。これは結果が解るか
ら、そして喜びがあるか

らです。

調子が悪い時の運で行くと、道に迷ったり、転んだりする。吉方に行つて嫌なことがあつたり、ケガをするか。方位と運は両輪になっている。用気は方位、同会は運氣、この二点を見ること。

九星で物事の精算する所は、定位盤の中宮。

二年前の三碧の所のものが中宮で現れる。三年前は二黒（坤宮）の所で種を蒔いたものが中宮で現れる。

盛運ではあるが、会社が続くか、閉めるかどうなのかは、中宮の五黄がどう答えてくれるのか、これが一つ。もう一つは艮宮で整理・整頓で結論が出るのです。坤艮の線が軸となり、ここに来ると改善したくなる。

三つ目の問題は、年盤の表の東の九紫、西の四緑が定位盤の定位震宮三碧と兌宮の七赤の意味が入るといふ事を頭に入れて選ぶことも大事です。

対沖の理論などの場合、今年は六と七、八と五。一と三。九と四と四通りの対沖があります。定位対沖も同じで一白は離宮九紫に入ったとき、九紫

は坎宮一白に入ったとき

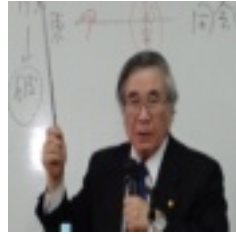
これは相剋といつてもつとも厳しい。昔は、付き離れといい、離れの部分を強くみました。また艮宮八白は、変化がある所で面白くないことが起こりやすく、南の方位と東北の方位は使わせないケースがありました。しかし吉方であれば許されるのです。

定位対沖論を唱えられたのは、中村文聰師です。五黄中宮以外の年は必ず一ヶ所あり、今年には八白が対沖の坤宮に定位対沖となつています。中村文聰師で定位対沖は、必ず災いが生ずると言われています。従来の大正館の先生は取り上げていません。定位対沖説の方位を取ると、今年の四月は東の七赤方位は使えるか。

同会法ですね、震宮に金性が入りますので、体調を壊しやすい。運勢で見ると、疲れやすい、神経が痛む、足腰が痺れる。これは私の説でもありません。定位盤を使つていくわけですから、八通りになり、ネットでも厳しく言われているのが、南北と東西であるというの

で相談があつた訳です。

何故、四正だけを取り上げたのか。南北は五行の中で厳しく作用する相剋の水剋火であり、それを取り上げた事は差し支えない。東西の方は、金剋木になります。この五行の作用は、気学だけでなく他の占法でも使つています。定位盤は固定したもので、年盤・月盤は変化したもので動物図なのです。方位を定位で写すという事は、取捨する必要があるというのが私の意見です。



土用殺（土の障り）

土用殺といつて、春夏秋冬、年四回あります。季節が変わる時に起こる。土用は五黄殺として掘るので大変厳しい。土用の間の十八日間は、土をいじらないように、建物を建てない（基礎を造らない）よう動きを禁じるなどは、陰陽道の方から来ています。春は辰（四月十七日から五月四日）

東南。夏は未（七月二十

日から八月六日）西南。秋は戌（十月二十一日から十一月七日）西北。冬は丑（一月十七日から二月三日）東北。平均して十八日間あり、間日が入つてある。厳しいのは、春で東南の辰に出るが気学で四隅で六十度になつたので東南全部が駄目になりました。土用の障りは突然怪我をしたり、熱が出たり、解らない症状特に消化器系や内臓障害が起こりやすい。気学の場

合の方法 十二支の三合は相剋の関係で、そこに意味があります。合はないものを組み合わせて良いものが生まれる。三合は年内で取れず翌年になった場合に保気はあるか。なるべく時間を詰めて取る方がよい。

五行の方法：木取りは卯の三合で、これから伸びていこう、発展性。火

取りは先を見る時、九紫の作用で入試や裁判事など。土取りは神社でいた

た。お二人の先生方、誠にありがとうございました。

た。お二人の先生方、誠にありがとうございました。

た。お二人の先生方、誠にありがとうございました。

二十周年記念会

福田有宵



二十周年を終えて一段落しました。春を惜しんでいるうちに早くも麦秋の季節です。時が過ぎゆくように、人の世にも亦歳月は人を待たずといひ変わりようがあるものです。

永い二十年を皆様と共に易学をご縁にして、今日までご交誼を続けられた喜びと、深い絆に感謝を申し上げます。

古語に『十清九濁』の言葉があり、いろいろさまさまの意味ですが、一生の道は清濁が混ざりながら、進んだり退いたりすることなのでしょう。

そんな想いを抱きながら、一年二年三年と重ね二十年となり、歳月の滋味をしみじみ味わうことが出来ました。さて皆様には、この二十年の経過はいかがであつ

NPO法人 岳易館・有宵会 二十周年記念式典



久保田恵都予



たでしょう。か。厳しい身
上もあり、悲喜こもこも
となる問題もあつた方も
あつたでしょうが、おし
なべて誰方にも安穩で福
祿寿を得られることをま
すます期待していきたい
ものですね。

振り返ると今年の歳旦
のことです。二十周年は
どの様な意義があるのか
と、思い、立筈をして卦を
求めました。

艮為山の六五で、象辞
には『時止則止。時行則
行。動靜不失其時。其道
光明。』とあり、この二
十年の様子を見事に述べ
ています。時節の流れと
人々の集まりを、艮為山
の学舎の中で、山のごと
く積み重ねていく姿に感
銘を受けた次第でした。

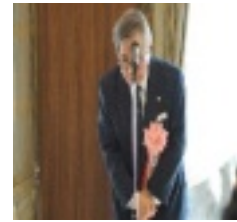
またお引き物の多包布
ですが、数多くの品があ
り易卦であれば、どのよ
うな意味を捉えるかと、
易に聞きました。

沢山咸の九四でした。
象辞に『二氣感応以相
与。止面説。男以女』

咸とは喜んで感じてく
ださる意となるので、安
心して正倉院華鳥錦図を
選びました。

四月初めに当日の天気
如何と問われたので、風

地観の初六を得て、暁暗
の曇りから快晴にいたる
様子を伝えましたなど、
易は道順を爽やかに示さ
れたのでした。



合掌

二十周年を顧みて

有峰会会長 牧野有峰



桜咲く絶好の春日和り
に、NPO法人岳易館・
有宵会の二十周年式典も、
皆さま方の暖かいご支援
とご指導のおかげで、有
終の美を飾ることが出来
ました。

また、この度は公私と
もにお忙しいところ日比
谷・松本楼までご参集い
ただきまして誠に有難う
ございました。
本来ならば、お一人お

ひとりにお礼を申し上げ
るべきところ、会報をお
かり致しまして御礼を申
し上げます。

今後ともこの素晴らし
い有宵会を、さらに愛さ
れる会にしていきたいと
思っています。

これからご指導、ご
鞭撻のほどよろしくお願
い申し上げます

簡単ですが、お礼のあ
いさつと代えさせていた
だきます。

NPO法人岳易館・有宵会二十周年式典を終えて

吉田 侑加

NPO法人岳易館・有
宵会創立二十周年の祝賀
会が四月十日、日比谷松
本楼にて滞りなく執り行
われました。

ご来賓の皆様、会員の
皆様方のご参加の元に盛
大なパーティーとなりま
した。



発足当時を思い起こし
ますと、感無量で胸がいっ
ぱいになりました

これからも福田先生始
め、会員各位の益々のご
活躍、ご発展を心よりお
祈り致しております。

二〇周年祝賀会を終えて

伊藤 璃香

去る四月一〇日(日)
日比谷松本楼で、有宵会
設立二〇周年の記念祝賀
会が催されました。

穏やかな天候に恵まれ、
暖かな日射しを浴びた木々
の緑が眩しい一日、松本
楼に一五〇名の方々が集
いました。

会の総合同会は佐藤先
生、柔らかな弦楽生演奏
をバックになごやかに会
が進みます。

第一部は来賓のご祝辞
に始まり、門人代表及び
福田先生のご挨拶に続い
て、表彰・免状授与の式
典です。

まず様々な分野での会
への協力や貢献に対して、
福田先生から四〇名の方
に感謝状が贈られました。

次いで特別功労賞を吉田・
牧野・佐藤・伊藤の各先
生方に授与。

免状は、修了証二四名、
免許証二五名、鑑定士資
格認定証四七名、教師資
格認定証一四名の多きに
なりました。改めて会の

勉学成果と育った人の層
の厚さに目を見張る思い
でした。



第二部はいよいよ懇親
会の始まりです。乾杯の
音頭はご来賓の小室隆様、
次いで各教室代表の方々
から、個性豊かな祝辞・
挨拶が華やかに披露され
ました。列席の皆さんも
美味しい料理に舌鼓を打
ちながら熱心に聞き入っ
ておられ、多くの方が記
念の色紙に心を込めてサ
インをされていました。

閉会のご挨拶は菅原有
恒先生に頂戴しました。
宴も果て、第三部の記
念写真撮影を滞りなく済
ませて、会の終了です。

お土産は、記念誌、多
包布、紅白のお饅頭、そ
れにタオルです。とくに
多包布は正倉院ゆかりの
紋様入りで、福田先生も
お気に入り品の品です。幅
広い用途にお使い下さい。
名入りのタオルは愛田人
生様(半田先生のご主人)
のご厚意によるものです。

生花のお持ち帰りも喜ば
れたことと思います。

松本楼での祝宴もこれ
で三度目となりました。
第一回は一〇周年祝賀。
平成一九年の一月三〇日、
参加は一四〇名。

第二回がNPO法人認証
祝いで二二年四月二〇日
の開催、一一五名。

今回は第三回となり、二
〇周年を祝う会、一五〇
名の方々が参加されまし
た。

見事に運営された今回
の会ですが、裏方の皆さ
んは大変なご苦勞をされ
ました。

当日は役員及びお手伝
いの方々が早朝から集ま
り、受付準備、会場内配
置整理、お土産の袋詰め
等々、それぞれの持ち場
で準備にかかります。受
付は若手の皆さん、会場
内は半田・久保田先生が
主となり、若い男性方の
お手伝いも得て準備を進
めて頂きました。つくづく
有宵会の人材に恵まれて
いることを実感した次
第です。

松本楼の方から「格調
の高い会ですね」とお褒
め頂いたこと、嬉しく思
い返します、また岡本潤
也さんをリーダーとする

「みみミュージック」の弦楽四重奏も、大変好評でした。感謝申し上げます。



改めてこの二十年を振り返ってみますと、楽しかったことが頭をよぎります。勉学の喜び、福田先生の暖かさや同門の方々とのお触れ合い、お会いするの待ち遠しく思える日々でした。

会の終了後、誰ともなく、また何かの折を見て祝賀の会を持ちたいとお話がありました。そのお話は、若い世代の活躍にも期待したいところです。皆さまお体を大切にされ、またいつの日にかお元気で会いできるような念じております。

「岳易館・有宵会の記念式典によせて」

大川 法祥

季節は移ろい春の息吹が輝かに満ちて参ります。四月十日の佳き日に「岳

伊藤璃香

易館・有宵会創立二十周年」の記念式典が日比谷・松本楼にて催されました。思いがけず若輩の私に招待状が届き、末席を汚すのは如何なるものかと随分躊躇しましたが、福田先生の思いに添う事が御恩返しになるのでは？と思ひ直し、出席の決意をしました。

日本最初の洋式公園として誕生した日比谷公園と同時に誕生した松本楼は過ぎし数々の歴史を偲ばせるたたずまいで由緒が感じられました。

定刻の十一時となり、プログラムに添って、佐藤宗眩先生の司会進行により開会の辞、来賓挨拶。門人代表の辞、そして理事長福田有宵先生の御挨拶があり、次いで感謝状並びに免状授与式となりました。

バックミュージックに弦楽四重奏の生バンドの曲が奏でられ格調高い雰囲気の中、肅々と進んでいきます。

私は、この日、二度のサプライズがありショックでした。

第一部での終盤の授与式の時、突然私の名前が呼ばれ間違いで？と一瞬

キョトンとしました。それは「感謝状」でした。岳易館・有宵会の賛助会員（何時の間になったのでしょうか？）として、永年にわたり当会の正統なる岳易の普及発展に尽力した功績に対しての感謝との事。私は、それ程の事は何もしていないのに…と恥かしい限りです。

第二部の懇談会に入り、バックミュージックの快いメロディを聴き乍らフランス料理を賞味、楽しい会話が弾む中、御来賓の祝辞が続いていました。終盤にさしかかり突然私が指名され、スピーチを依頼されました。



予期せぬ事で戸惑いましたが、福田先生・有宵会への思いと感謝を述べました。それにしても、直前迄黙っているなんて、福田先生、佐藤先生、お二人共お人が悪い…と思いつつも、如何にも先生らしいなと思ひ直し、後でちよっぴり恨み言を申しますと福田先生は穏やかに

に笑っておられました。会場を彩る豪華な花々が馥郁と香りを漂わせ百六十名の参加者の親しみは一層華やき、心暖まる感動的な式典でした。

式終了後は、第三部、四階のスタジオで記念撮影。人数が多い為四交替の撮影となりました。

「有宵会二〇周年パーティーに参加して」

伊東直子

福田先生との「ご縁」初めて福田先生にお会いしたのは湯島の教室だった。平成二十年七月。

易を勉強したくて本を、買い道具を揃えたら、湯島で学べることになった。予め易の本を読み自分

なりの覚悟はしたものの、漢字の読みから赤ペンが入る。四〇人の受講者が真剣に聞いている。天井では大きな扇風機がリズムカルに回っている。夏の午後、気が付くと居眠りしてノートの文字が難解な古文書のようになっていた。

鑑定仲間から、とても素晴らしい先生がいらして紹介したので、と講演会に呼ばれた。ご挨拶をしようとする（あれ？）「また、お会いしました

ね」湯島の教室から二日目で、また福田先生が目の前にいらした。ご縁があるとしか言いようがない状況である。この時に福田先生から会報をいただき「有宵会」という会の存在を知った。

何年前だったかTVのワイドショーで、先生が男性リポーターと住宅街を歩いている。表札をみてその家の人の様子を言い当てるという場面を見たことがあった。その時は「こんなことがわかるんだ、凄い！」くらいの感じだったけど、あの時の先生に学べるなんて、人生って何て面白いのしょう。

「有宵会との「ご縁」

湯島に行き始めて一年近く経った頃、有宵会に出席。会場は個性的な方達で埋め尽くされている。圧倒されている間に終了。その後は可能な限り出席し、その度に講師の方々が貴重なお話や、知らない分野の事など、学びの多い会に感謝。

そして岳易館有宵会NPO法人設立記念パーティーが松本楼で開催、出席し、徐々に有宵会の凄さが実感として受け止められて

きた。数年後には研修旅行にも参加し、今までは違いう有宵会の顔も覗くことができ、イベントの度に自分自身に気づくものが増えていった。

「有宵会の礎」

今回の二〇周年パーティーでは簡単な気持ちで裏でのお手伝いを申し出た。こんな時は多分、猫の手でも欲しいのではと、勝手に思ったことだが。実際は、執行部の方々の集中力、エナジー、素晴らしいさを体感し、改めて有宵会の礎となる人々に感動するとい嬉しいう宝物をいただくことになった。

「パーティーでは」

パーティー会場ではそれぞれの教室等でテーブル分けし、そのなかでもパワフルな高年齢の方々、いろんな分野の方々、列席で華やかな祝宴だった。特徴的なことは資格認定お免状の授与で、有宵会ならではの光景だった。ご馳走を頂きほろ酔い気分でご写真撮影、記念誌と記念品入りの袋と花束をお土産に解散。

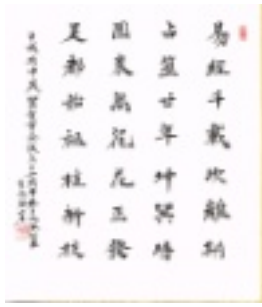
様々な感動をありがとう

ございました。



祝電もいただいております。

菅原有恒先生からお祝いの漢詩も頂戴致しました。



和歌山県九度山

「真田丸」

大川法祥

希望を捨てず過ごした蟄居の地、和歌山県九度山

天下分け目の関ヶ原、真田信繁（真田幸村の本名）は父・昌幸と西軍に兄・信幸は東軍に参じて戦った。敗れた昌幸、信繁親子が蟄居を命じられ移り住んだのがここ、九度山だ。北に紀ノ川、南に世界遺産高野山を望む自然と歴史が調和した町。14年もの時をこの地で過ごした信繁は天文学に精を出したり、こっそり紀ノ川に水練に行ったり、村民とも仲良く暮らしていたらしい。常に希望を捨てず、前向きに生きて信繁の人となり、町のそこここから感じられる。



何故、九度山と言うのでしょうか？

世界遺産の慈尊院は弘法大師の御母公が住まわれた場所。母を思い、大師は女人禁制の高野山から降りて、月に九度も母を慕って通ったから九度山と言われる所以だそうです。慈尊院は通称「オツパイ寺」と言われ、母乳が良く出る様に、又胸が大きくなれと願う若い女性に人気があり、絵馬にはリアルな乳房を張り、乳首も自分で付けて奉納するのだそうです。真珠の乳首をつける人もあります。

六文銭
何故、六文銭をシンボルとしたのでしょうか？
六文銭は三途の川を渡る時のお金。死を恐れず戦に挑む決意の現れだそうです。悲愴感が漂っていますね。

NHKで放映されている「真田丸」の人気に便乗して南海電鉄は盛んにPR活動をしています。昨年、先生も高野詣での折通過した「南海高野線九度山駅舎」も一部の車両も真田カラーの真赤に塗り、シンボルの六文銭を要所に取り入れたホーム、真田ミュージアムもオーブン、「紀州九度山真田まつり」と称して俳優による武者行列パレード等、盛り沢山で賑わいを見せ

ています。多様なパンフレットの中から一点を選んでお送りします。マンガチックですが、信州時代・高野山九度山時代・大坂冬の陣そして、大坂夏の陣で最後を迎えるまで歴史に忠実に画かれており御参考になるかと思えます。奇しくも昨年乗車された路線でチョッピリ御縁があるかな？と。

卯の花

野山や川辺に自生し、庭や垣根にも植えて親しまれているユキノシタ科の落葉低木である。「卯都木の花」を略した呼び名です。幹が空洞になっているので、「空木」と記すこともあります。「卯の花」は陰暦4月陽暦では5月に咲くため初夏の季語になっています。五弁の真っ白い小花が集まって咲く風情は、可憐で印象深く、夏の到来を告げる花とされています。

江戸時代には、4月8日に仏前や門口に卯の花を飾る風習があり、卯の花売りもいました。おからや、おからに油揚げやシイタケなどを入れて甘めに煮た惣菜も、

白くてふわっとしているので、卯の花と呼びます。



NPO通信

四月一〇日(日) 有宵会設立二〇周年記念祝賀会が、日比谷松本楼で催されました。

八月六日(土) 江東区文化センターに於いて(社)日本占術協会との共催で無料鑑定会を行いますので、ふるってご参加ください。



事務局だより

次回は総会と例会
日時 七月三〇日(土)
午後一時一五分より
(終了後懇親会予定)

場所 足立区勤労福祉会館「プルミエ」にて

総会 平成二十八年定期総会開催

講演 今平乾象先生による「占例の検討」のご講演。

講義 「手相・人相の未公開分」

福田 有宵

尚 七月は有宵会の平成二十八年度第一回目例会と総会でございますのでご出席の程お願い致します。

日本占術協会の年次総会が行われます。

日時 六月一二日(日)
午後二時より

場所 ホテル・グランドパレス(九段下)

午後五時開催の懇親会には会員外の方も参加できますのでおいで下さい。

三月の有宵会には六七名の方々が参加されました。

伊藤瑞香